

「グローバルなヒンドゥー教・仏教イニシアティブセミナー」に対する
安倍総理ビデオメッセージ

2015年9月3日

このたび、「グローバルなヒンドゥー教・仏教イニシアティブセミナー」がニューデリーで開催されることを、心より歓迎いたします。まず、このシンポジウムを実現させたインド側関係者の尽力に敬意を表します。我々アジアの国々が、自らの宗教や思想の歴史を振り返り、未来への知恵を学ぼうとするこのシンポジウムの考え方に、私自身、大きな共感を覚えます。

日本は、6世紀にインドから中国を通じて仏教を受容しました。以来、仏教は日本の精神的基礎を形作る上で、大きな役割を果たしてきました。日本が重視する「法の支配」の起源の一つは、仏教にあります。仏教に深く帰依した聖徳太子は、7世紀、日本初の憲法を制定しました。8世紀に日本に伝わったとされる「金光明最勝王経（こんこうみょう・さいしょうおうきょう）」は、「王が法をもって国を治めなければ、あたかも象が花壇を踏み荒らすように、政（まつりごと）は損なわれる」と教え、当時の政治の中心的理念となりました。日本に「法の支配」が根付いているのは、仏教を通じ、古くから「法の支配」と同じ考え方が根付いてきたからと言えます。こうした考え方は、インド哲学の「ダルマ」にも見出すことができます。

自由、民主主義、基本的人権の尊重、紛争の平和的解決。これらは、アジアにおける宗教や思想に内在した、我々の精神的基礎に共通している普遍的価値です。

もう一つのアジアの特徴は、多様性を認め合う、寛容の精神です。アジアには、仏教・ヒンドゥー教の慈悲があり、儒教の仁（じん）があり、イスラム教の友愛があります。精神の高みに至る道は一つではない、ヴィヴェーカーナンダはそう説きました。多様性は弱さではなく、創造性の母です。

最後に、このシンポジウムにおいて、普遍的価値と多様性に基づいたアジア、そして世界の秩序の在り方につき、有意義な議論が行われることを心より祈念し、私のお祝いメッセージといたします。